

不況下…来れ職人の世界

建築塗装業人材確保へ

県内10社 「伝統技能挑戦を」

雇用危機の今こそ、来れ職人の世界に。県内の建築塗装業が不況を逆手に取り、人材確保に乗り出した。業界では若者の志願者が減少。伝統技術の継承が危ぶまれている。担当者は「技能とやる気さえあれば、解雇にも定年にもならない。ぜひ挑戦してほしい」と話している。

元派遣社員ら研修 富士宮



屋根の塗装作業で新人の指導に当たる伊藤支部長(奥)。日本の職人魂を若い人に
つなげていきたいと話す―富士宮市

日本建築塗装職人の会が一月から全国で三百人規模の求人を開始。県内では富士宮、静岡、清水、島田、浜松、掛川の六支部に加盟する十社がそれぞれ二―五人の枠を設けた。

富士宮支部のペイントショップ栄和では、正社員に応募した二人が研修を続けている。派遣社員として自動車部品工場で働いていた富士市の男性(三三)は、「勤務日、給料が減って派遣切りの影が見えてきた。手に職をつけて安定した生活を送りたい」と転職を決意した。

民家のトタン屋根の塗り替え作業に当たりながら、「体力的な厳しさや人のものを扱う緊張感はあるけれど、自分が塗装する中で新しくなっていく過程が楽しい」と話す。